田村志津枝さん コラム

PICK UP MOVIE

『熊は、いない』

10/28〜

［2022年／イラン／ペルシア語・アゼリー語・トルコ語／107分］
監督・脚本・製作：ジャファル・パナヒ
撮影：アミン・ジャファリ
編集：アミル・エトミナーン
サウンドデザイン：モハマド・レザ・デルパック
原題：خرس نیست／英題：NO BEARS

©2022_JP Production_all rights reserved

国境のかなたに
自由はあるか

食べ物屋や商店が立ち並ぶ庶民的な通り。行きかう人々に混じり、お茶売りや流しのクラリネット奏者の姿も見える。カフェで働く女性が電話で呼び出されて通りに出ると、彼女は男から偽のパスポートを渡され、3日以内に出国しろと言われる。男もパスポートを入手次第、すぐ後を追うから、と。だが女は、離れ離れになるのはイヤだと言い張る。

これは、リモートで撮影されているドキュメンタリードラマの一場面、ロケ地はトルコの町だ。イラン在住の監督パナヒは政府ににらまれ、出国禁止の身だ。そこで彼はイランのトルコ国境近くの村に来て、インターネット回線で撮影隊に指示を出し、撮影を進めているのだ。回線は不安定で連絡は途絶えがちだ。けれども、トルコで撮影隊を率いている助監督が、夜半にこっそりパナヒに会いに来たりする。それなりの手を打てば密輸ルートを使ってロケ地まで行くのは簡単だ、とパナヒを誘うが、パナヒは頑として国境を越えようとはしない。

一方、パナヒが滞在する村では、テヘランからはるばるやってきたパナヒに好奇と猜疑の目が注がれる。パナヒに宿を提供している家族は、温かくもてなしてくれる。そしてパナヒも、因習や迷信のはびこる村人たちに辛抱強く真摯に対応する。しかし互いに真っ当であってもどうしようもない何かがある。パナヒは、村の男、彼の許嫁だと出生時に決められてしまった女性、女性の現在の恋人、の3人をめぐる村ぐるみの確執に巻き込まれていく。

パナヒはついに国境警察から目を付けられ、親切にしてくれた村人に迷惑をかけないよう村を去ることにする。しかしそのころ、ロケ先のドキュメンタリードラマの主役の男女、それに村の恋人たちが思わぬ事件に遭遇する。彼らは政府の迫害から、あるいは因習や迷信だらけの村から逃れるため、国境を越えようとしたのだが。

パナヒ監督は、人道主義的な立場からイランの人々の生き方を描いてきた。彼自身、実際に映画制作禁止・出国禁止の刑を言い渡されたのちも、さまざまな手法を駆使して映画を作り続けている。フィクションとノンフィクションを織り交ぜたこの作品で、彼は自分と同じ境遇の監督を演じている。そして監督は国境を越えないが、国境を越えようとした2組の男女を描いてる。これは監督が生き延びようと手繰り寄せる糸をたどる物語だろうか。監督独特のてらいのない美しい生活描写のなかで語られる話だけに、現実社会の不可解さをあぶり出している傑作だ。

プロフィール
田村志津枝：ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた　1977年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウシャオシェンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。